

眉をあくれば

秋田県立雄物川高等学校
校長室だより 第4号
平成29年9月8日(金)
執筆 信田 正之

夏に思う

夏休みに入ったばかりの7月下旬、県南部や中央部を襲った大雨は県内に甚大な被害をもたらしました。幸いにも学校周辺は無事でしたが、何人かの生徒の自宅が床上浸水の被害を受けたとかがっています。被災したご家族の皆様には、心からお見舞いを申し上げます。そしてその後は、例年どおりの暑い日々。しかし、このような過酷な条件にもかかわらず、生徒の皆さんは部活動、進路活動、インターンシップ、勉強セミナー等に休まず参加し、汗水流して頑張ってくれました。特に印象的だったのは、吹奏楽部の全県コンクールや男子バレーボール部のインターハイです。どちらも残念ながら努力の成果を十分発揮できませんでしたが、翌日から次に向けて練習を開始する姿が強く心に残っています。

苦しいとき、つらいとき、人はそこから逃げ出したくなる。でも、周囲との関わりの中でもがき、あがき、何かをつかみ取ることで人は成長します。そこであきらめてしまえば、先には進まない。男子バレーボール部がミニ国体で優勝できたのは、インターハイの悔しさを練習にぶつけ、あきらめないで努力し、成長した証です。そこには以前とは違った選手たちの姿が必ずあったはずです。今日の自分は昨日の自分と違う。人は日々、成長した分だけ生まれかわるのだと私は思います。

このようなことを考えるうち、ふつふつと思いが膨らみ、久しぶりに歌をつくってみましたので、皆さんに紹介します。と言っても、残念ながら紙ではメロディを伝えることができません。曲にしたものを聴きたい人は、ぜひ校長室に足を運んでください。

努力してもうまくいかないときは誰にでもある。でも、人との関わりの中で生き方を学び、あきらめずに努力すれば、人は成長し、生まれかわるのだという内容です。皆さんへの応援メッセージになれば幸いです。

あの夏に僕は生まれた

music & words by Sinta

流れ落ちる汗を拭いもしないで 命燃やした時をここで過ごした
あふれる涙を拭いもできずに 夢破れた夏がここで終わった

入道雲の上に遙か青い空 蝉時雨の音が耳に残っていた

僕が自由に空を飛べたとしても 焼けるようなあの夏にまた帰るだろう
君が僕に生きる意味を教えた 焼けるようなあの夏に僕は生まれた

西瓜畑の道に突然の雨 蝉時雨の音はずっと聞こえてた

いつか僕がここから旅立っても 焼けるようなあの夏はずっと忘れないだろう
君と出会って生きる道を見つけた 焼けるようなあの夏に僕は生まれた